

moderato

取扱説明書



この度は、ランダルコーポレーションの製品をお買い上げ、またはレンタル頂き、まことにありがとうございます。

この「取扱説明書」には、車いすを安全にご使用いただくための注意事項が記載されています。ご使用前に必ずお読みになり正しくお使いください。

また調整手順・点検リストも記載されております。車いすを安全にご使用いただくため、手順をよくご理解頂き、指示に従い正しく作業を行ってください。

※本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上の為、一部予告なく変更することがあります。



ランダルコーポレーション

1. 重要なお知らせ	3
1.1 製品について	3
1.2 介助者へ	3
1.3 お使いになる前に	3
1.4 車いす利用者は、歩行者扱い	4
1.5 飛行機に搭乗される場合	4
1.6 車などに載せる場合	4
1.7 製品を譲渡・貸与する場合	4
1.8 修理のご依頼	4
1.9 廃棄する場合	4
2. 各部の名称とはたらき	5
3. 安全に関するご注意	7
3.1 安全について	7
3.2 警告表示について	7
3.3 警告ラベルについて	8
3.4 一般的な注意	9
3.5 調整時の注意	10
3.6 走行時の注意	11
3.7 安全に座っていただくために（ヒールループ）	12
4. 各部を調整する	13
4.1 車いすを開く	13
4.2 車いすをたたむ	14
4.3 フットプレート进行调整する	15
4.4 座クッション・枕を取付ける	15
4.5 アームサポートの高さを調整する	16
4.6 フット・レッグサポートを調整・着脱する	17
4.7 背ベースシートを調整する	19
4.8 座ベースシートを調整する	19
4.9 オートレスト機構を調整する	20
5. ブレーキを使う	23
5.1 駐车用ブレーキを使う	23
5.2 介助ブレーキを使う	23

6. 車いすの使い方	24
6.1 車いすに乗る（移乗する）	24
6.2 坂道を走行する	25
6.3 階段を下りる・上がる	25
6.4 段差を乗り越える	26
7. 点検・整備する	27
7.1 日常点検リスト	27
7.2 定期点検リスト	27
8. 清掃する	29
9. 仕様	30
9.1 各部の寸法	30
9.2 各部の仕様	31
9.3 材料・材質一覧表	32
10. 保証について	33
10.1 保証書	33
10.2 保証期間終了後	33
11. 保管する	34
12. 故障かな？と思ったら	34

1. 重要なお知らせ

1.1 製品について

■ 製品の使用目的

この製品は、自力では移動が困難な方の移動を助ける、介助用^{※1}オートレスト機構付車いすです。

この製品は 1 人乗りです。耐荷重を守ってお使いください。

※1 オートレスト機構とはティルティング機構とリクライニング機構が連動している機構のことです。

■ 同梱部品の確認

本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

部品名	個数	備考
取扱説明書	1 冊	
4mm六角レンチ	1 個	
5mm六角レンチ	1 個	
6mm六角レンチ	1 個	
13mm スパナ	1 個	
枕	1 個	
座クッション	1 個	

1.2 介助者へ

- ・ 搭乗者の身体の一部及び衣服（長いマフラー、ひざ掛け、ダブついた服や長ネックレス等）がタイヤ、スポーク、キャスト及び地面、建物、通行者に触れたり、挟まったりしないようにご注意ください。
- ・ 介助者は、搭乗者を乗せる前に十分に練習を行ってください。
- ・ 取扱説明書に沿った安全教育を行ってください。
- ・ 搭乗者と介助者の少なくとも一人が日本語を母国語としない人の場合、搭乗者と介助者の母国語による安全教育を行ってください。

1.3 お使いになる前に

- ・ 車いすを使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。
- ・ 異常を発見した場合は使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
- ・ 長期間使用を続けると、劣化が生じます。定期点検が必要です。

※ 詳細については、「7 点検・整備する」を参照ください。

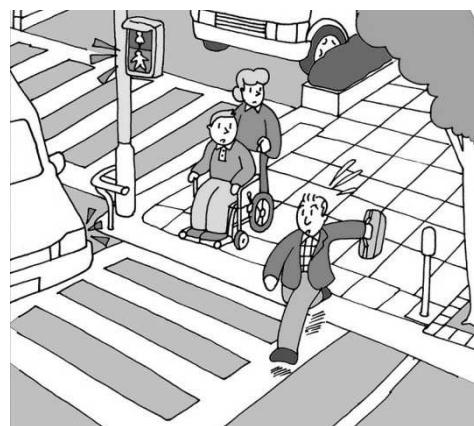
1.4 車いす利用者は、歩行者扱い

日本の道路交通法では、車いす利用者は歩行者として取り扱われます。

車いす利用時は、歩行者としての交通ルールを守りましょう。

「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」の道路標識がある歩行者専用道路も通ることができます。

信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。次の「青」信号を待ちましょう。
あせらず、ゆとりを持った横断、走行を心がけましょう。



1.5 飛行機に搭乗される場合

お客様の車いすをご旅行先へ持っていかれる場合は、事前に利用予定航空会社又は旅行代理店にご相談ください。

※ 事前確認なしに空港へ行きますと、航空会社の確認業務に時間がかかり、ご希望の便に間に合わなかったり、せっかくの旅行を取りやめなくてはならなくなったりします。

特にガススプリングを使用している本車いすは飛行機への搭載可否の判断に日数を要する場合があります。お早めに手続きを行い、スムーズなご旅行をお楽しみください。



1.6 車などに載せる場合

車内温度が -10°C ～ 80°C の範囲を超えると、ガススプリングが動作不良を起こすおそれがあります。取扱いには十分ご注意ください。

車体を横倒しの状態で車に積まないでください。車軸やフレームに破損が生じるおそれがあります。

1.7 製品を譲渡・貸与する場合

この製品を他の方にお譲りまたは貸与される際は、必ず本書もあわせてお渡しください。

1.8 修理のご依頼

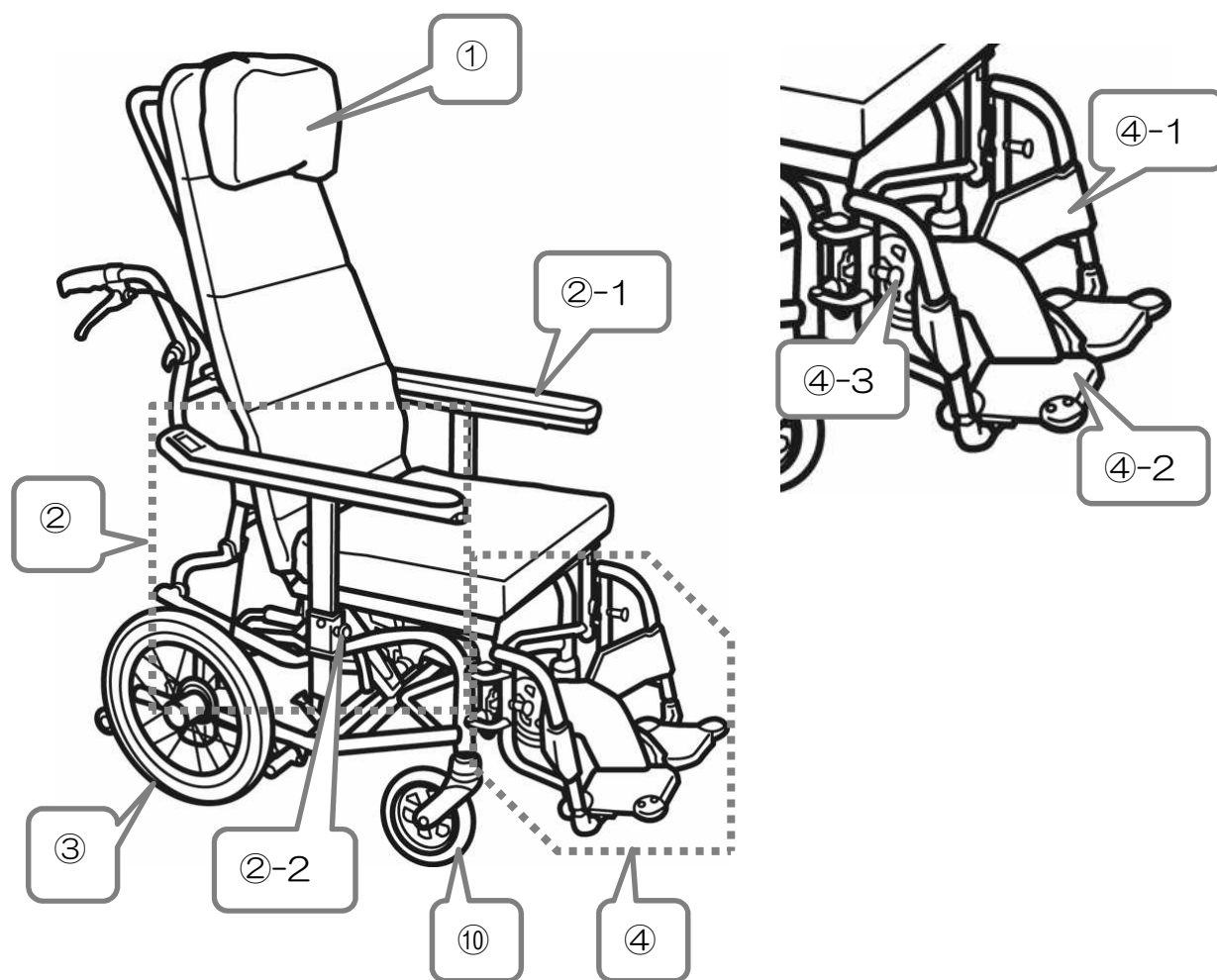
異常がある場合は、使用を中止しお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

1.9 廃棄する場合

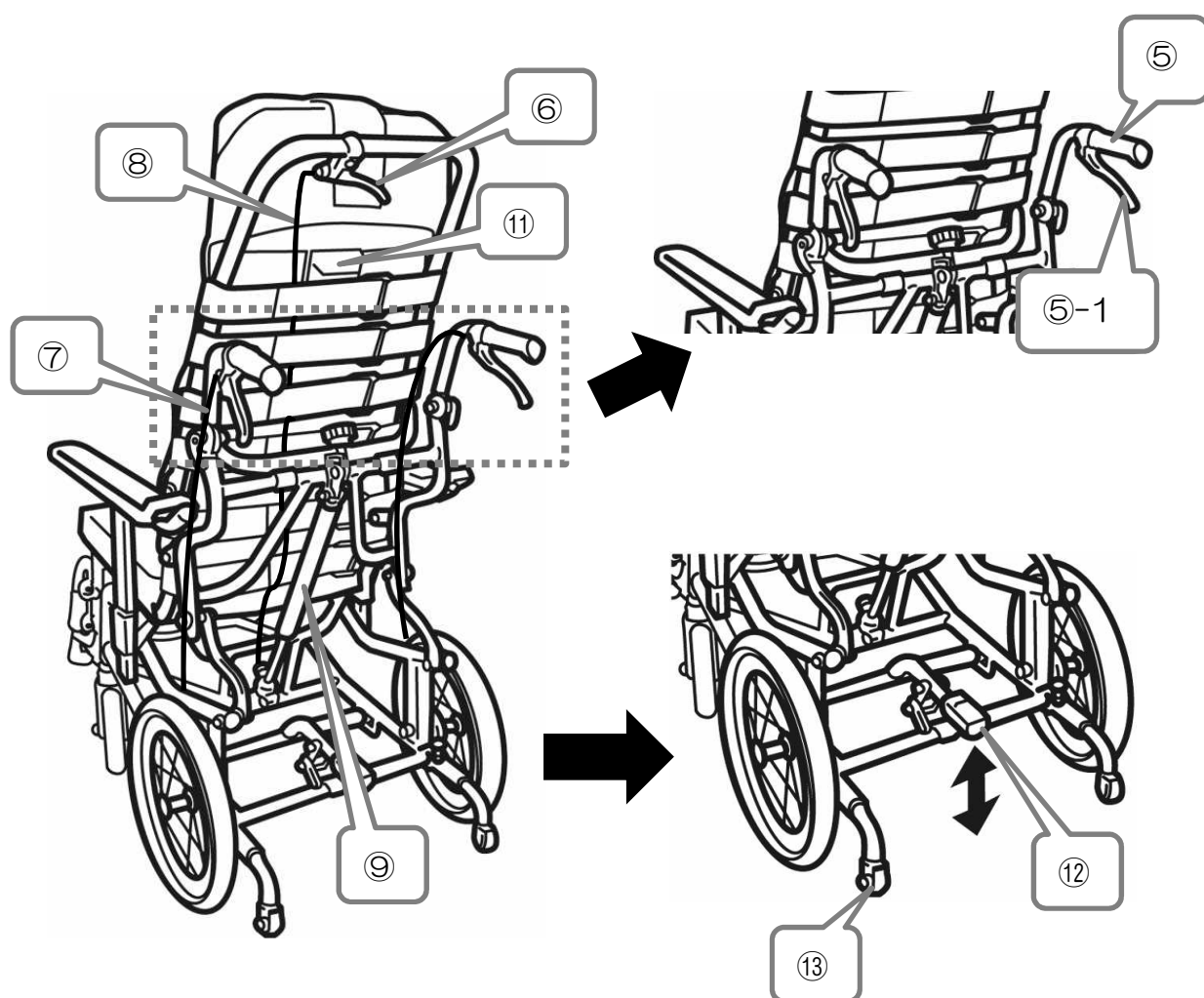
製品を廃棄する場合は、地球の環境保護のため、そのまま放置しないで、各自治体の取決めにしたがってください。

製品について	介助者へ	お使いになる前に	車いす利用者は、歩行者扱い	飛行機に搭乗される場合	車などに載せる場合	製品を譲渡・貸与する場合	修理のご依頼	廃棄する場合
--------	------	----------	---------------	-------------	-----------	--------------	--------	--------

2. 各部の名称とはたらき



No.	名称	説明
①	枕	頭を支持するものです。
②	アームサポート	高さが調節できます。（上下式）
②-1	肘当て	搭乗者が肘を乗せる場所です。
②-2	高さ調整スライドピン	アームサポートを上下させる際に使います。
③	車輪	駆動を伝えるものです。
④	フット・レッグサポート	足を支持する装置です。
④-1	ヒールループ	足が後ろに落ちないように支えます。
④-2	フットプレート	足を乗せる板です。
④-3	スイングアウトスライドピン	フット・レッグサポートをスイングアウトする際に使用します。



No.	名称	説明
⑤	手押しハンドル	介助者が車いすを移動させる際に握る部分です。
⑤-1	介助ブレーキレバー	介助者がブレーキを制動するときに握る部分です。
⑥	オートレストレバー	座と背もたれ角度を調整する際に握ります。
⑦	ブレーキワイヤ	ブレーキ操作を伝達するワイヤです。
⑧	オートレストワイヤ	オートレスト機構を伝達するワイヤです。
⑨	ガススプリング	オートレスト機構を作動させます。
⑩	キャスタ	自在に方向転換できる小車輪です。
⑪	工具ポケット	同梱の工具を収納できます。
⑫	駐車用ブレーキ	車いすを駐車する際に使用します。
⑬	転倒防止金具	後方への転倒を防止します。

3. 安全に関するご注意

3.1 安全について

この製品では、次の2つの方法により、利用者へ製品使用上の注意事項をお伝えしています。

- この取扱説明書への「警告文」の記載
- 製品上への「警告ラベル」の表示

製品をご利用になる前に、この取扱説明書に記載されているすべての警告文を注意深くお読みください。また、製品に表示されたすべての警告ラベルの場所と内容を確認してください。

万一、警告文や警告ラベルの意味が十分理解できないときは、販売店またはお近くの営業所・サテライトまでご相談ください。

警告文や警告ラベルの意味を十分理解するまで絶対に製品を使用しないでください。

3.2 警告表示について

取扱説明書の警告文および警告ラベルでは、製品使用中に想定される危険な状態を以下のシンボルマークで表示しています。

警告文や警告ラベルの内容を無視すると、その警告内容に使われたシンボルマークに応じた事故につながるおそれがあります。

■ 表示の説明

シンボルマーク	警告の意味
 危険	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷を負うことがあり、かつその切迫の度合いが高い危害の程度。
 警告	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷を負うことが想定される危害の程度。
 注意	取扱いを誤った場合、傷害を負うことが想定されるかまたは、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

■ 図記号の意味（JIS Z9104 より）

シンボルマーク	警告の意味
 禁 止	してはいけないことを示しています。
 強 制	必ずしなければならないことを示しています。

3.3 警告ラベルについて

■ 取扱い上の注意事項

警告ラベルを破る、傷つける、はがす、またはシンナーやベンジンなどの有機溶剤で拭かないでください。

製品に貼られた警告ラベルの文字が読みにくくなったり、損傷したり、はがれた場合には、当社から同じ警告ラベルを購入し、元と同じ場所に貼り直してください。警告ラベルが貼られた部品を交換した場合は、交換前と同じ位置に新しい警告ラベルを貼ってください。

■ 警告ラベルの貼り付け場所



3. 安全に関するご注意

3.4 一般的な注意

⚠ 危険

 禁 止	● 子供や前方が見えないほど身長の高い方は、車いすを押さないでください。 ※ 前方が見えず、転落などにより重大な事故のおそれがあります。
	● 車いすに荷物を掛けたり、ぶら下がったりしないでください。 ※ 転倒したり、不意に動き出したりして重大な事故のおそれがあります。
	● 足こぎなどで走行しないでください。 ※ キャスタが足にあたりケガや転倒するおそれがあります。
 強 制	● 介助者は搭乗者の腕が肘当てから外側に落ちていないか、よく注意しながら操作してください。 ※ 腕が肘当てから外側に落ちていると、指がタイヤのスプークに挟まれ切断などのおそれがあります。

⚠ 警告

 禁 止	● 背もたれを倒した状態で食事をしないでください。 ※ 誤嚥、気道閉塞のおそれがあります。
	● 介助者無しで使用しないでください。 ※ 自分でコントロールできない方や認知症の方の場合、交通事故などの重大な事故発生のおそれがあります。
	● 飲酒時の使用は、搭乗者も介助者も厳禁です。 ※ 意図しない動作をするおそれがあります。
	● 車いすを火気に近づけないでください。 ※ シート部が燃えたり、金属部が高温になるなど火傷のおそれがあります。
 強 制	● 車いすを使用する場合は、必ず枕を搭乗者に合わせてください。 ※ フレームなどに頭をぶつけてケガをするおそれがあります。

⚠ 注意

 禁 止	● 車いすの操作は、力の無い人、ハイヒールなど不安定な履物を履いた人がしないでください。 ※ 制御しきれなくなって、予期せぬ事故のおそれがあります。
	● 人以外を乗せないでください。 ※ 安定しない物を乗せると落下し、運搬者や周りの人にケガをさせるおそれがあります。
 強 制	● 各部の操作をする場合は、安定した場所で行ってください。 ※ 不安定な場所で行うと車いすも巻き込んで転倒しケガをするおそれがあります。
	● 人を乗せたまま背もたれを起こす場合は注意が必要です。 ※ 搭乗者の手や腕を挟み込んでケガをさせるおそれがあります。
	● エレベータの乗降時には注意が必要です。 ※ 他のエレベータ利用者に当たり、双方がケガをするおそれがあります。また、ドアに挟まりケガをするおそれがあります。

3.5 調整時の注意

⚠ 注意

 強 制	● フット・レッグサポートを操作する場合は、搭乗者に声をかけてから行ってください。 ※ 足が固定されている場合、急激に足が落ちると肉離れ、靱帯損傷、および骨折のおそれがあります。
	● フット・レッグサポートを操作する場合は、注意してください。 ※ フット・レッグサポートと主フレームの間に指が挟まりケガをするおそれがあります。
	● スイングアウトをロックした場合は、スイングアウトスライドピンが確実にロックされているか確認ください。 ※ ロックが不完全ですとフット・レッグサポートの急旋回などによる転倒でケガをするおそれがあります。
	● オートレスト機構操作時は、床や路面の安定した場所で行ってください。 ※ 不安定な坂や凹凸のある場所で行うと車いすを巻き込んで転倒しケガをするおそれがあります。また、主フレームが破損するおそれがあります。

3. 安全に関するご注意

3.6 走行時の注意

⚠ 危険



禁止

- 急な坂道（勾配4度以上）では使用しないでください。
※ 介助者が車いすを支えきれなくなり、転倒したり、また、暴走し壁や車に激突し、重大な事故のおそれがあります。
- 踏切や溝の側はできるだけ走行しないでください。
※ キャスタが線路や溝にはまり込んだり、急ブレーキをかけて搭乗者が転倒すると動けなくなり、交通事故などの重大事故となるおそれがあります。
- 不整地はできるだけ走行しないでください。
※ 車輪が思うように動かせなかったり、尖った石でタイヤがパンクしたりして、搭乗者が転倒して大ケガをするおそれがあります。
- 凍結した道路や雪、雨の中を走行しないでください。
※ 滑って転倒して大ケガをするおそれがあります。
- 傘をさしての走行はできるだけ避けてください。
※ 視界不良による交通事故のおそれがあります。
- 車道を走行しないでください。
※ 交通事故に巻き込まれるおそれがあります。
- アームサポートから腕が落ちた状態で走行しないでください。
※ 腕が車輪に巻き込まれ、擦り傷、切り傷、最悪の場合は骨折や指を切断するおそれがあります。

⚠ 警告



強制

- 濡れた路面など滑りやすい場所の走行は注意が必要です。
※ 介助ブレーキが効かず壁にぶつかったり、転倒したりしてケガをするおそれがあります。
- 駅のホームでの走行は注意が必要です。
※ ホームから転落したり、乗降時に電車とホームの間に落ち込んだり、人と接触したりしてケガのおそれがあります。介助者が必ず付き添い、目を離さないでください。

⚠ 注意



禁止

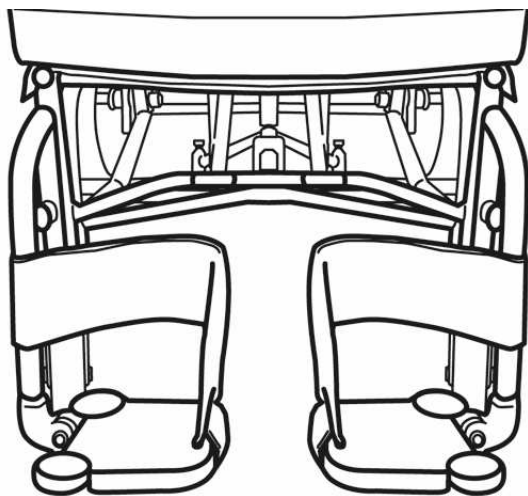
- 石や段差など片上がりさせて走行しないでください。
※ 主フレームやキャスタを損傷させるおそれがあります。



強制

- 車いすを押す場合は必ず手押しハンドルを使ってください。
※ 手押しハンドルを使わず、車いすを押したり牽引したりするとバランスを崩して転倒するおそれがあります。
- 車いすを押す場合は駐車用ブレーキが解除されていることを確認してください。
※ 駐車用ブレーキをかけたまま無理に押しますと車いすの各部に異常な力がかかり破損のおそれがあります。

3.7 安全に座っていただくために（ヒールループ）



⚠ 警告



強 制

- 搭乗者の足をフットプレートに乗せ、ヒールループを使用してください。
- ※ 使用していないと足が落ち込み、キャストに巻き込まれてケガをするおそれがあります。

4. 各部を調整する

4.1 車いすを開く

注 記

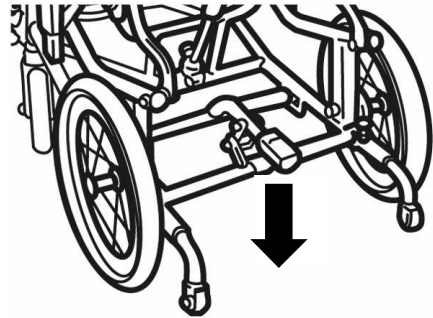
- 平坦な場所で行ってください。

1 駐車用ブレーキをかけます。

- 車いすが固定されていることを確認します。

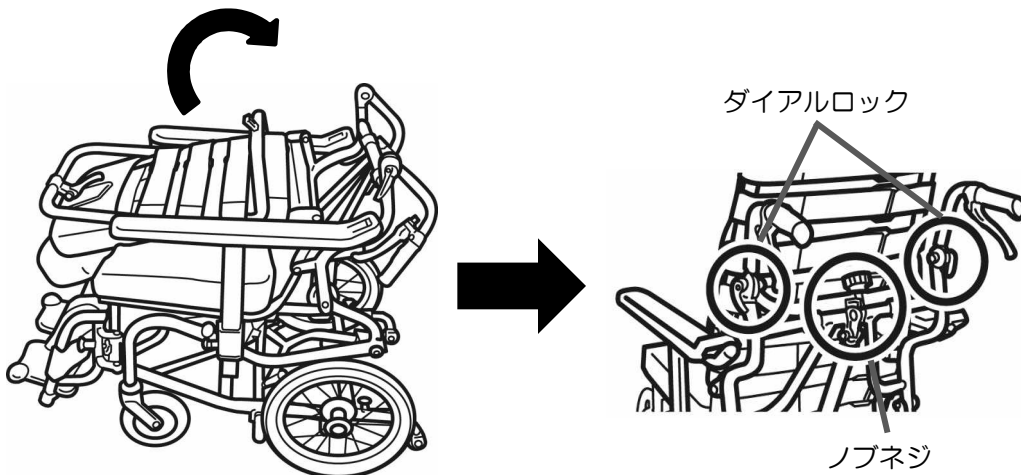
注 記

- 後輪の空気圧が低すぎるとブレーキの効きが悪くなります。
目安として、タイヤを手で押してやや硬い程度（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください。



2 背もたれを起こします。

- ① 背もたれ下部のノブネジをいったん緩めて手前に倒します。
- ② 背もたれを固定してから固く締め付けてください。



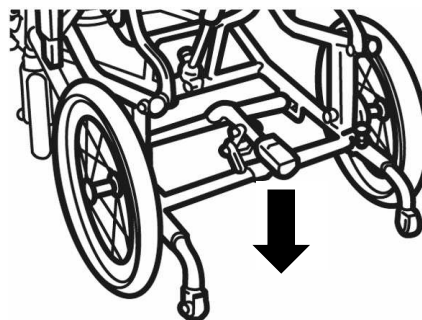
- ③ ダイヤルロックのレバーを起こし、押手を適当な位置に調節します。
- ④ 調節後ダイヤルロックを倒して押手パイプを固定します。

4. 各部を調整する

4.2 車いすをたたむ

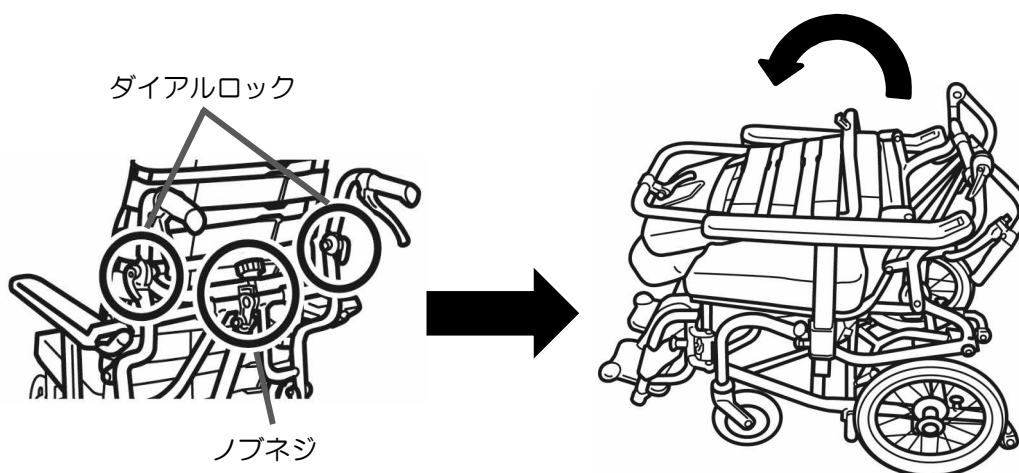
1 駐車用ブレーキをかけます。

- 車いすが固定されていることを確認します。



2 背もたれをたたみます。

- ① ダイヤルロックのレバーを起こし、押手パイプをたたみます。
- ② 背もたれ下部のノブネジをいったん緩めて手前に倒します。



車いすを 開く	車いすを たたむ	フットプレート を調整する	座クッション・ 枕を取付ける	アームサポ ートの高さを 調整する	フット・レッグ サポートを調整・ 着脱する	背ベースシート を調整する	リクライニング を調整する
------------	-------------	------------------	-------------------	-------------------------	-----------------------------	------------------	------------------

4. 各部を調整する

4.3 フットプレートを調整する

出荷時は、フットプレートは別箱に梱包してあります。

別箱から取出して調整して下さい。

⚠ 注意

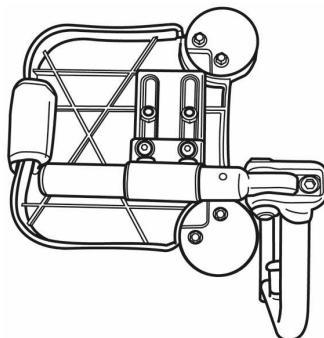


禁止

● フットプレートは下げすぎないでください。フットプレートと地面との隙間が 50mm 以下になるような調整はしないでください。

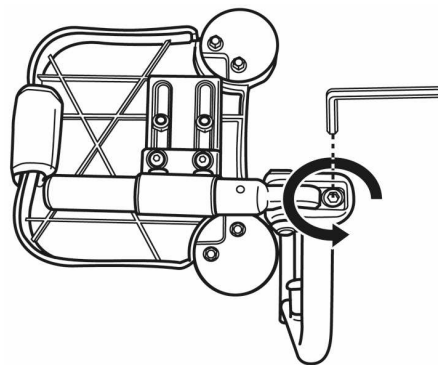
※ フットプレートを障害物にぶつけて破損させるおそれがあります。

1 フットプレートを倒します。



2 付属品の 6mm 六角レンチを使って
ポスト先端ボルトを少し緩めます。
反時計回りで緩めます。

3 フットプレートの高さを調節します。

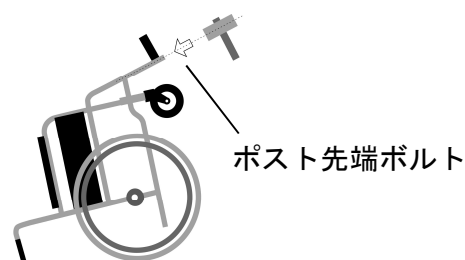


4 ポスト先端ボルトを締付けます。

📖 注 記

● フットプレートが固くて動かない場合は、
下図のように車いすを倒し、ポスト先端
ボルトを緩めた状態でフットサポートに
垂直に木槌等でポスト先端ボルト頭を叩
いてください。

(レッグパイプ内部のフットサ
ポートのかみ込みを解除します。)



4.4 座クッション・枕を取付ける

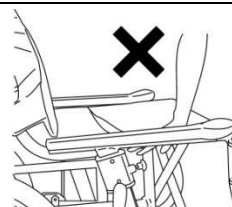
1 座ベースシートの面ファスナーに合わせて座クッションを取付けます。

2 背クッションの表側と裏側の面ファスナーに合わせて枕を取付けます。

4.5 アームサポートの高さを調整する

⚠ 警告

	● アームサポートに体重以上の過大な力をかけないでください。 ※ アームサポートが折れ、転倒してケガをするおそれがあります。
	● アームサポートに座らないでください。 ※ 転倒してケガをするおそれがあります。
	● アームサポートとフレームとの間には手や腕などを入れないでください。 ※ 手や腕が挟まるとケガをするおそれがあります。
	● アームサポートを上げた状態で使用ください。 ※ 転倒のおそれがあります。
	● 使用時はアームサポートがしっかりと固定されていることを確認してください。 ※ 高さ調整スライドピンが調整穴に確実に収まっていないと、体重をかけたとき急にアームサポートが下がるなどの危険があります。



⚠ 注意

	● アームサポートを操作する場合は、搭乗者に声をかけてから行ってください。 ※ 搭乗者の手足を挟み、ケガをさせるおそれがあります。
--	---

- 1 高さ調整スライドピンを引き、ロックを解除します。

📌 注 記

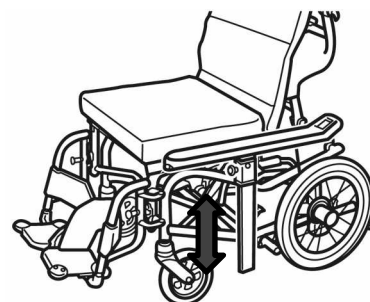
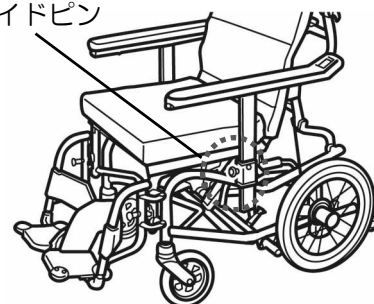
- 腕をのせた状態で操作しないでください。

- 2 高さ調整スライドピンを引いた状態でアームサポートを矢印の方向に引き上げ（押し下げ）、任意の高さに調整します。

📌 注 記

- 調整後はアームサポートを上下に軽く揺らして、固定されていることを確認してください。

高さ調整スライドピン

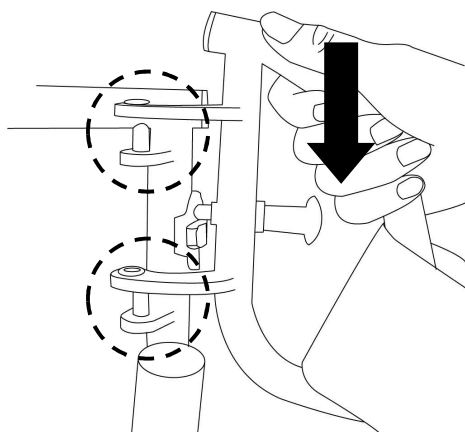


4. 各部を調整する

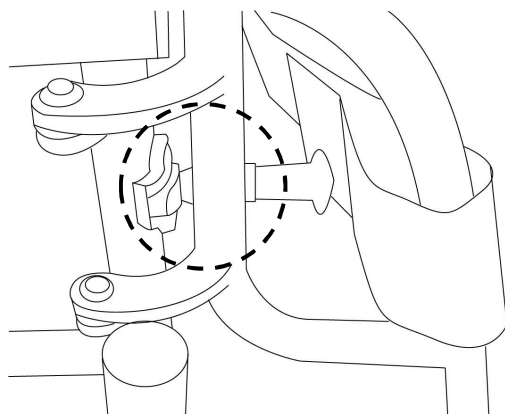
4.6 フット・レッグサポートを調整・着脱する

■ フット・レッグサポートを取付ける

- 1 車いす本体にある2つの凸部分にフット・レッグサポートの2つの穴部分を上から差し込みます。



- 2 フット・レッグサポートを内側へ廻し、スイングアウトスライドピンでロックします。



☞ 注 記

- 取付け後はフット・レッグサポートを左右に軽く揺らして、固定されていることを確認してください。

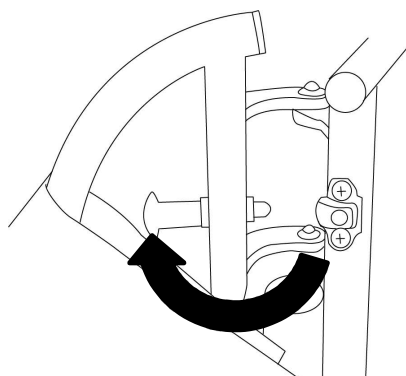
■ スイングアウトする場合

スイングアウトはフット・レッグサポートをワンタッチで開閉・着脱できる機構です。搭乗者の車いすからの乗り降り、介助者が移乗をサポートする際に足回りスペースが確保されます。

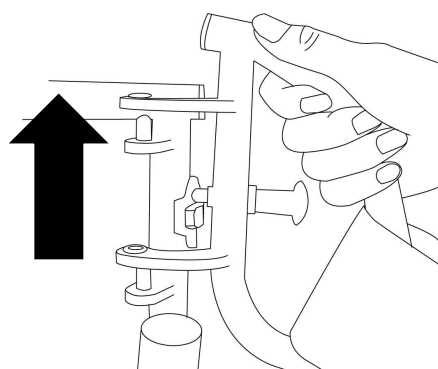
- 1 スイングアウトスライドピンを引いて固定ロックを解除します。



- 2 フット・レッグサポートを外側に廻します。



- 3 外側に廻した状態でフット・レッグサポートを上引き抜くと取外すことができます。



車いすを開く	車いすをたたむ	フットプレート を調整する	座クッション・ 枕を取付ける	アームサポ ートの高さを 調整する	フット・レッグ サポートを調整・ 着脱する	背ベースシート を調整する	リクライニング を調整する
--------	---------	------------------	-------------------	-------------------------	-----------------------------	------------------	------------------

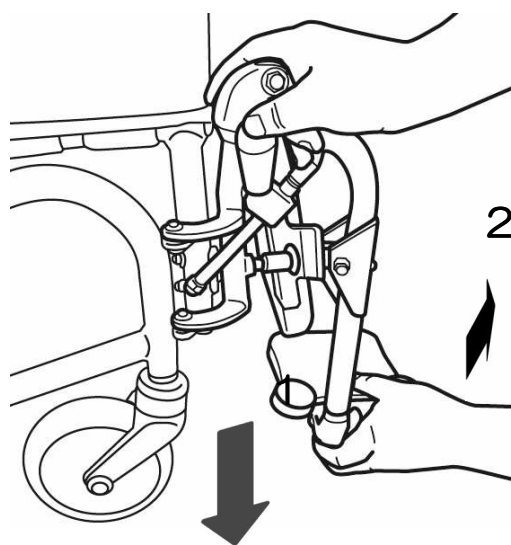
4. 各部を調整する

■ フット・レッグサポートを取付ける<エレベーター式脚部の場合>

1 車いす本体にある2つの凸部分に
フット・レッグサポートの2つの
穴部分を上から差し込みます。

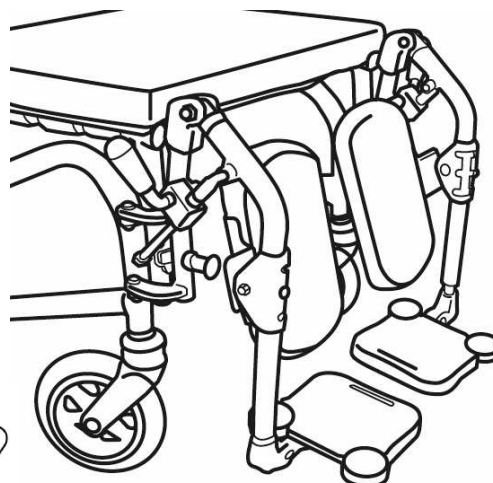
2 フット・レッグサポートを内側へ
廻し、スイングアウトスライドピ
ンでロックします。

(反対側のフット・レッグサポートも同
様の手順で行います。)



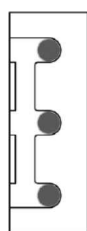
注 記

- 取付け後はフット・レッグサポートを
左右に軽く揺らして、固定されている
ことを確認してください。

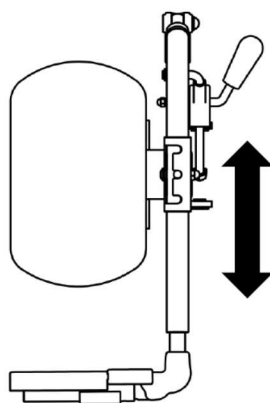


ふくらはぎパッドの高さ
が3段階で調節できます。

※ポッチが確実に凹
部に収まっているこ
とを確認してくださ
い。



ポッチ



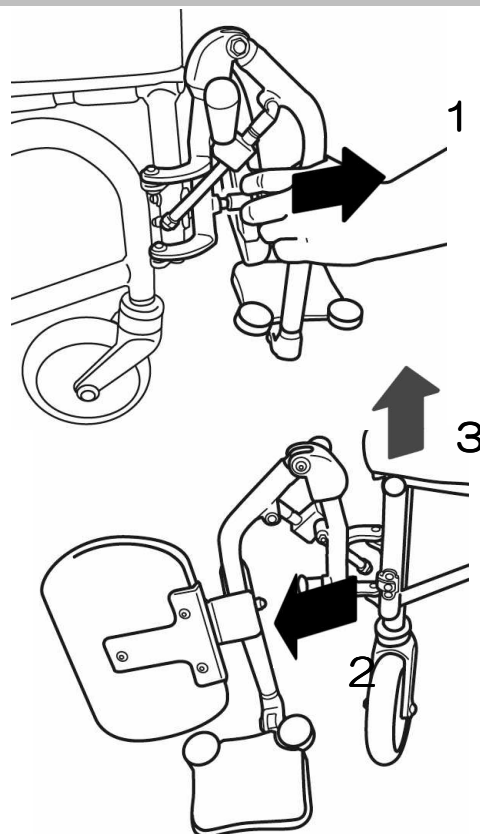
■ スイングアウトする場合

スイングアウトはフット・レッグサポートをワンタッチで開閉・着脱できる機構です。
搭乗者の車いすからの乗り降り、介助者が移乗をサポートする際に足回りスペー
スが確保されます。

1 スイングアウトスライドピンを引いて
固定ロックを解除します。

2 フット・レッグサポートを外側に廻し
ます。

3 外側に廻した状態でフット・レッグサ
ポートを上引き抜くと取外すこと
ができます。



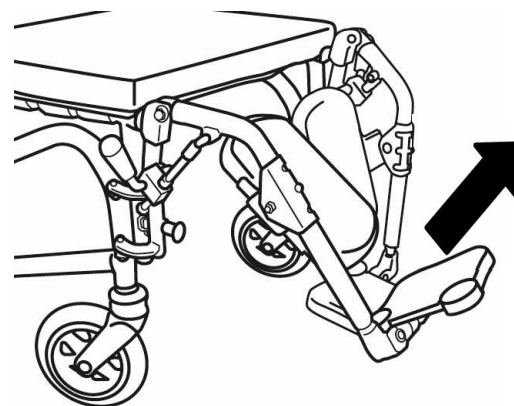
■ エレベーターリングする場合

エレベーターリングはフット・レッグサポートの角度を任意で調整できる仕様です。
リクライニング時のリラックス姿勢や膝が曲がらない場合などに調整し、適正な位置
でお使いいただけます。

<上げる場合>

フット・レッグサポートを任意の高さ
まで持ち上げます。

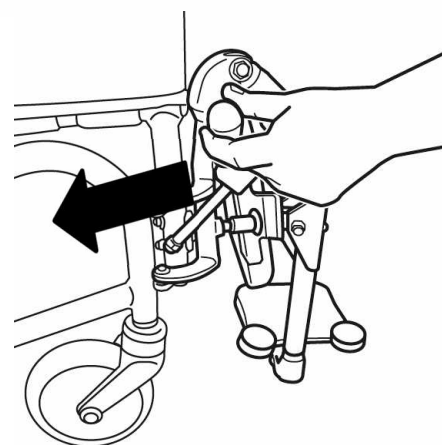
(反対側のフット・レッグサポートも同
様の手順で行います。)



<下げる場合>

フット・レッグサポートを片手で支え
ながら、もう一方の手でレバーを背も
たれ側に倒します。

(反対側のフット・レッグサポートも同
様の手順で行います。)



車いすを 開く	車いすを たたむ	フットプレート を調整する	座クッション・ 枕を取付ける	アームサポ ートの高さを 調整する	フット・レッグ サポートを調整・ 着脱する	背ベースシート を調整する	リクライニング を調整する
------------	-------------	------------------	-------------------	-------------------------	-----------------------------	------------------	------------------

4. 各部を調整する

4.7 背ベースシートを調整する

この車いすの背ベースシートは搭乗者の体型に合わせて調整できます。
一番楽な姿勢が保持できるように調整してください。

⚠ 注意

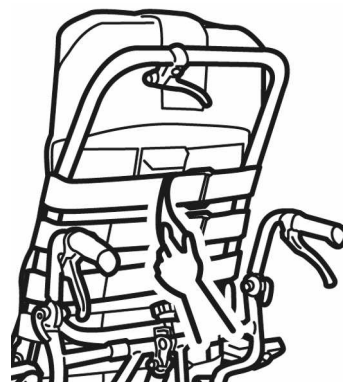


- 面ファスナーに糸くず・汚れなどがついたときは取除いてください。
※ 接着力が弱まり、衝撃を受けた際に転倒事故の原因となります。

- 1 背下クッションの後面をめくりあげず。
- 2 背ベースシートの調整ベルトを搭乗者の
体型に合わせて調整します。
- 3 背下クッションの後面を元に戻します。

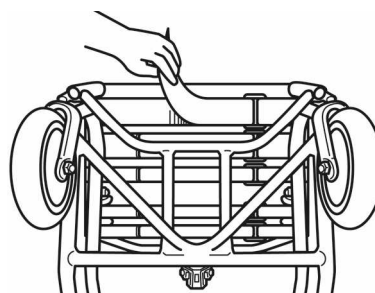
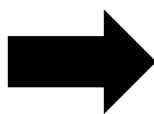
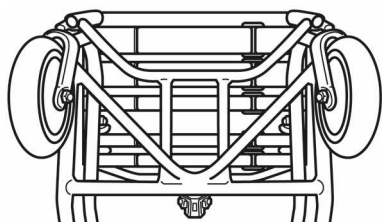
➡ 注 記

- 下から1番目と2番目のベルトはピンツと張り、
緩めていくことが張り調整のポイントです。



4.8 座ベースシートを調整する

- 1 座ベースシートの調整は座面裏側で行います。
調整ベルトを搭乗者の体型に合わせて調整します。



➡ 注 記

- 手前側のベルトは張り、奥側のベルトを徐々に緩めていくことが張り調整のポイントです。

4.9 オートレスト機構を調整する

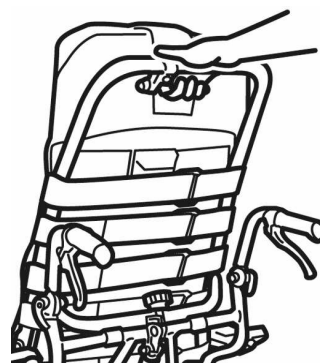
本製品の背もたれは、体幹を保持するために角度を調整できます。

また、独自の機構により、繰返しオートレスト機構操作を行っても腹部への圧迫や骨盤の押し出しが生じにくいいため、搭乗者への負担が一般的な車いすと比べて小さいです。

⚠ 注意	
 禁止	● ガススプリングの取付け部周辺に、手や足を入れないでください。 ※ フレームに手や足が挟まり、ケガをするおそれがあります。
 強制	● オートレスト機構操作をする場合は、搭乗者に声をかけてから行ってください。 ※ 搭乗者の手足を挟み、ケガをさせるおそれがあります。 ● オートレスト機構操作時は、必ず介助者が付き添ってください。 ※ オートレスト機構操作時は非常に不安定となり、後方へ転倒しやすく搭乗者にケガをさせるおそれがあります。転倒防止金具を装備していますが、走行時は十分に注意してください。

■ オートレスト機構操作

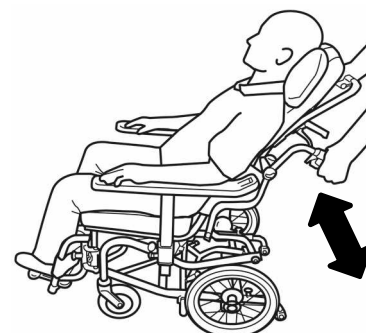
1 オートレスト機構操作レバーを握ります。



2 オートレスト機構操作レバーを握った状態で、下げると背もたれが倒れ、起すと背もたれが起き上がります。

📌 注 記

- オートレスト機構操作レバーを放すと、その時点で背もたれは固定されます。
- 人が搭乗した状態でないと背もたれを倒すことはできません。



車いすを開く	車いすをたたむ	フットプレート を調整する	座クッション・ 枕を取付ける	アームサポ ートの高さを 調整する	フット・レッグ サポートを調整・ 着脱する	背ベースシート を調整する	リクライニング を調整する
--------	---------	------------------	-------------------	-------------------------	-----------------------------	------------------	------------------

5. ブレーキを使う

5.1 駐車用ブレーキを使う

車いすへの乗り降りや、一時停止の際パーキングブレーキとして使います。

警告



禁止

- 坂道や傾斜地では駐車しないでください。

※ 坂道や傾斜地では駐車用ブレーキをかけても車いすが動く場合があります、大変危険です。（滑りやすい床面などでは、駐車用ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。）

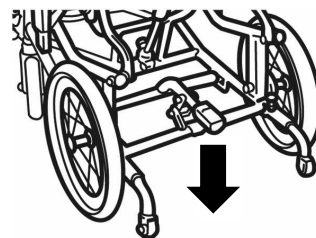


1 駐車ブレーキペダルを踏み込み、駐車用ブレーキをかけます。



注 記

- 後輪の空気圧が低すぎるとブレーキの効きが悪くなります。目安として、タイヤを手で押してやや硬い程度（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください。



2 駐車ブレーキペダルを戻し、駐車ブレーキを解除します。

5.2 介助ブレーキを使う

介助ブレーキは走行中や下り坂などで速度を制動するために介助者が操作するものです。

警告



禁止

- 急ブレーキや片側ブレーキは、絶対にかけないでください。

※ 搭乗者が投げ出されたり、車いすが転倒してケガをさせるおそれがあります。

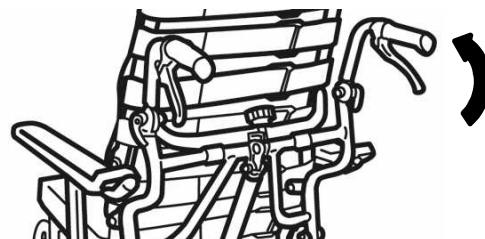


強制

- 介助ブレーキをかける時は、必ず両方のブレーキレバーを握り、左右均等の力を加えてください。

※ 左右を別に操作すると、車いすが旋回し、バランスを崩して転倒するなど搭乗者にケガをさせるおそれがあります。

両方のブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、離すと解除します。



6. 車いすの使い方

6.1 車いすに乗る（移乗する）

搭乗者を介助者がベッドなどから移す方法です。

平らな場所で行ってください。また、背もたれが倒れた状態で移乗を行わないでください。双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。

⚠ 危険



禁止

- フットプレートに乗らないでください。
※ 車いすごと転倒し、大ケガをするおそれがあります。



強制

- 移乗時は、介助者が安定した体勢で行ってください。
※ 不安定な姿勢で行った場合、介助者や車いすも巻き込んで転倒しケガをするおそれがあります。

1 駐車用ブレーキをかけます。

2 介助者が片足を搭乗者の膝の間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がらせます。



3 介助者の膝で搭乗者を支えながら、車いすの方へお尻を向けます。



4 搭乗者にゆっくりと腰を下ろしてもらいます。



📌 注 記

- 「いち、にの、さん」など、声をかけながらおたがいに協力しましょう。
- 転倒しないように、十分な配慮が必要です。

6. 車いすの使い方

6.2 坂道を走行する

車いすの安全な使い方は、“ゆっくり” “確実に” と “シートベルト着用” が基本です。

■ 上り坂

介助者は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します。



■ 下り坂

坂を下るときは介助ブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。



6.3 階段を下りる・上がる

! 危険



禁止

- アームサポートを下ろした状態で車いすを持ち上げないでください。
※ 搭乗者がバランスを崩して車いすから転落し、大ケガをするおそれがあります。

! 警告



強制

- 車いすを持ち上げる場合は、必ず3人以上でフレームを支えてください。
※ 無理して持ち上げると介助者も巻き込んで転倒するおそれがあります。
- 駐車用ブレーキをかけてから、車いすを持ち上げてください。
※ 車いすをおろした時に、不意に車体が動き、思わぬ事故になるおそれがあります。

一段ごとにタイミングをとってください。



6.4 段差を乗り越える

段差を乗り越える際は、転倒防止金具の向きを変更する必要があります。
また、左右の転倒防止金具の向きは、同じ方向で使用してください。

⚠ 警告



禁 止

- 5cm 以上の段差を乗り越えないでください。

※ 後方に転倒してケガをさせるおそれがあります。

⚠ 注意



強 制

- 段差を乗り越える場合は、前上げ動作を行ってください。

※ キャスタを段差にぶつけて破損させるおそれがあります。

主フレームの前下部を持ち上げて、段上
にキャストを上げます。



7. 点検・整備する

7.1 日常点検リスト

車いすを使用する前に各部の安全確認を行ってください。
付属のスパナを使用する場合、薄手の手袋を装着してください。

点検項目	点検内容
装着品の確認	フット・レッグサポートは装着されていますか
	ヒールループは装着されていますか
	フットサポートは装着されていますか
	転倒防止金具は装着されていますか
	枕、背クッション、座クッションは装着されていますか
車輪	空気が抜けていませんか
キャスト	キャスト輪はしっかり固定されていますか
駐車用ブレーキ	車輪はしっかりと止まりますか
介助ブレーキ	車輪はしっかりと止まりますか
アームサポート	高さ調整スライドピンでしっかり固定できていますか
フット・レッグサポート	フットサポートはしっかり固定されていますか
フレーム	まっすぐに走りますか
	各部ボルトやナットが緩んでいませんか

7.2 定期点検リスト

安全に使用して頂くためにご自身または取扱店で定期的に点検をして頂きますようお願いします。

長期間使用されなかった場合もリスト内の点検をしてください。

点検後、必要に応じて部品交換または各部調整をしてからご利用ください。

点検項目	点検内容	点検者	点検者	点検者
		年月日	年月日	年月日
装着品の確認	フット・レッグサポート			
	ヒールループ			
	転倒防止金具			
	枕			
オートレスト機構の確認	オートレスト機構の動作はスムーズですか			
	オートレスト機構操作レバーから手を離すと背もたれ部と座部の角度が固定されますか			
	オートレスト機構のワイヤに切れ、ほつれはありませんか			

点検項目	点検内容	点検者	点検者	点検者
		年月日	年月日	年月日
車輪	空気圧は 280kPa(軟式野球ボール程度の硬さ)ですか ¹⁾			
	緩み、損傷、摩耗はありませんか			
	タイヤバルブに緩み、損傷はありませんか			
	キズ、ひび割れはありませんか			
	異物が刺さっていませんか			
キャスト	しっかり固定されていますか			
	キャスト輪はしっかり固定されていますか			
	キズ、ひび割れはありませんか			
	異物が刺さっていませんか			
駐車用ブレーキ	車輪はしっかりと止まりますか			
	取付部が緩んでいませんか			
介助ブレーキ	車輪はしっかりと止まりますか			
	取付部が緩んでいませんか			
	効きに左右差はありませんか			
	ブレーキワイヤに切れ、ほつれはありませんか			
アームサポート	高さ調節の動作はスムーズですか			
	高さ調整スライドピンでしっかり固定できていますか			
	キズや亀裂はありませんか			
フット・レッグサポート	スイングアウトの動作はスムーズですか			
	フットサポートはしっかり固定されていますか			
	フットプレートが自重で落下しませんか			
	キズや割れはありませんか			
シート	著しいたるみはありませんか			
全体	各部にガタつきはありませんか			
	ボルト・ナットが緩んでいませんか			
	異音はありませんか			
	車輪とキャストは全て地面に接地していますか			
	まっすぐ走行しますか			
	折りたたみはスムーズに行えますか			

注 記

- ¹⁾ 当社は「英式バルブ」のタイヤを採用しているため、単体の圧力ゲージでも英式バルブの正確な空気圧測定はできません。空気圧は目安になります。

8. 清掃する

■ 金属部分（主フレーム）

主フレームなどの金属部は、乾いた布でよく汚れを落として、自動車用のワックスをかけ、乾いた布で拭き取ってください。スポークの通常のお手入れは、水を用いずに汚れを落とす程度で十分です。凹凸のある部分の汚れ、頑固に固着した汚れは、市販の中性洗剤を用いてください。

ガスピリングのお手入れは、水を使用せず、汚れを落として下さい。また、清掃後の注油などは不要です。注油をすると油漏れのおそれがあります。

■ 樹脂（プラスチック）部

樹脂部品には、市販の中性洗剤を使用ください。

■ クッション、シート類

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。面ファスナーに糸くず、汚れなどが付いたときは取除いてください。取除かないと、接着力が弱まり、衝撃を受けた際に転倒事故の原因となります。

＜汚れがひどいとき＞

- 汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を用いてください。その後、乾燥させてください。
- しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取除いてください。
- 洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。
- クッション表面に面ファスナー（オス）が接触しないようにしてください。（クッション生地のはつれ、けばだちの原因となります。）

9. 仕様

9.1 各部の寸法

記載の寸法や状態は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

(単位：mm)

品名・名称	CA-4300
座幅	420
前座高	430
フットサポート ・シート間距離	330～
後座高	—
シート奥行	350
バックサポート高	820
アームサポート高	190・210・230・250
全高	1210
折りたたみ時	700
全幅	580
折りたたみ時	580
全長	1040
折りたたみ時	800
重量 (kg)	20.0

9. 仕様

9.2 各部の仕様

車種名	CA-4300
フレーム	形式 オートレスト機構付固定式フレーム
	折りたたみ 前後折りたたみ式
	フレームカラー ブラック
車輪	種類 14 インチ エアーバンド式
	タイヤ 14×1.50 エアータイヤ
	チューブ 14×1.50 英式バルブ
キャスタ	6 インチ ニューソフト
	パッキン式樹脂 キャスタフォーク
	キャスタ輪 6 インチ ニューソフトキャスタ車輪
	キャスタフォーク 6 インチ パッキン式樹脂キャスタフォーク
背シート	形式 適合調整シート
	背延長&背下 ブラウン
	背クッションカラー ブラウン
	枕カラー ブラウン
シート	形式 適合調整シート 黒色
	座クッション形式 60mm 厚 多層クッション
	座クッションカラー ブラウン
シートベルト	なし
アームサポート	上下&高さ調整式
	肘当て ウレタンパッド
フット・レッグサポート	形式 スイングアウト式
	フットサポート 角度可変式
	フットプレート 黒色
	ヒールループ 黒
駐車用ブレーキ	足踏みブレーキ
	ペダル 黒色
介助ブレーキ	バンド式
グリップ	1.反射板付 黒色
リクライニング機構 (ガススプリング)	高圧ガス噴入式/反発力25kgf ストローク150mm
付属品	転倒防止金具 キャスタ付
SG マーク	なし
JIS マーク	なし
耐荷重	100kg (積載物含む)

注 記

- この車いすの車輪のハブ軸は 1/2 -20UNF のねじを使用しています。

9.3 材料・材質一覧表

各部名称			材質
主フレーム	フレーム	フレーム	アルミ合金
		表面仕上	焼付け塗装 溶剤型塗料使用
		溶接材料	アルミ合金
各部品	車輪	タイヤ	合成ゴム, ナイロン, ブチルゴム, スチールワイヤ
		チューブ	ブチルゴム
		リム	アルミ合金
		スポーク	スチール
		ハブ	スチール
		ナット	スチール
	キャスト	タイヤ	ポリウレタン
		ホイール	ポリプロピレン
		キャストフォーク	ポリアミド, グラスファイバー
		キャスト輪	スチール
	背クッション	表地	ポリエステル
		芯	ポリ塩化ビニル
	座クッション	表地	ポリエステル
	ヒールループ	生地	ポリエステル
	肘当て	クッション部	ポリウレタン
		中芯	スチール
		取付ネジ	スチール
	グリップ	グリップ	ポリ塩化ビニル
	フットサポート	フットプレート	ポリプロピレン, グラスファイバー
		ポスト	アルミ合金
		スプリング	スチール
		バンパーゴム	天然ゴム
		ウス	スチール
		引き上げ棒	スチール
	駐車ブレーキ	レバー	アルミ合金
		ペダル	合成ゴム
		カラー	POM 樹脂
		ブレーキヘッド	ステンレス
		スプリング	スチール
	介助ブレーキ	カバー	スチール
		シュー	合成ゴム, 繊維質充填材
		ブレーキレバー	ポリプロピレン
		ブレーキレバー取付バンド	スチール
		アウターワイヤ	ポリ塩化ビニル+スチール
		インナーワイヤ	スチール
梱包材	梱包材	外箱	ダンボール
		内袋	ポリエチレン
		テープ	ポリプロピレン

10. 保証について

10.1 保証書

保証書

品名／品番 moderato／CA-4300		保証期間	★お買い上げ日 年 月 日より1年間
お客様	お名前	★販売店	☎ ()
	〒 ☎ () ご住所		

★印欄の情報が確認できない場合は無効となりますので必ずご確認ください。

この保証書は、本書の記載内容に基づき無償修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から上記保証期間中に、取扱説明書、ラベル類などの注意書きに従った正しい使用状態で故障した場合は、本書をご提示の上、お買い上げ販売店に修理をご依頼ください。

【保証規定】

- 保証期間内（お買い上げの日より1年間）に、正常なご使用状態において故障した場合は、無償で修理いたします。
- 次のような場合は、保証期間内でも修理は有償となります。
 - 使用上の誤り、あるいは不当な改造や修理による故障および損傷
 - 弊社が指定する適合品以外の製品と組合せて使用したことによる故障および損傷
 - お買い上げ後の移動、設置、落下あるいは輸送による故障および損傷
 - 火災、煙害、異常電圧および地震、雷、風水害、その他、天災地変などによる故障および損傷
 - 保証書のご提示がない場合
 - 本保証書の保証期間および販売店名の未記入、あるいは字句を書き換えられた場合
 - 使用による消耗品の損耗
例) エアータイヤの磨耗およびパンク
 - 一般に車いすが走行しない場所、また特殊な状態での使用による破損
- 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
● This warranty is valid only in Japan.
- 本保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

■修理を依頼されるとき

◎連絡していただきたい内容

- 品名、品番、製品識別表示ラベルの番号
- お買い上げ日
- 故障、または異常の内容（できるだけ詳しく）
- お名前、ご住所、および電話番号

◎保証期間は

保証書の記載内容に基づき無償で修理いたします。

ただし、保証期間内でも修理が有償となる場合があります。詳しくは保証書をご覧ください。

■製品の最低保有年数は

弊社では、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有年数を製造打ち切り後、5年としております。

10.2 保証期間終了後

お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって製品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

11. 保管する

車いすは、お手入れ後、安全な場所に保管してください。

■ 長期保管について

半年以上未使用の状態では保管すると、チューブ・虫ゴム・タイヤなどのゴム製品が劣化しているおそれがあります。日常点検を実施して、必要があれば部品を交換してから使用してください。

12. 故障かな？と思ったら

車いすを使用されていて“おかしいな”と思ったら下表をご確認ください。
表以外の異常が発生した場合はそれ以上使用せず、取扱店にご相談ください。
車いすを使用する前に各部の安全確認を行ってください。

症状	確認事項	対応
駐車用ブレーキが効かない	空気圧は 280kPa (軟式野球ボール程度の硬さ) になっていますか ¹⁾	空気を入れてください
	取付部が緩んでいませんか	取扱店に相談してください
介助ブレーキが効かない	ブレーキワイヤに切れ、ほつれはありませんか	取扱店に相談してください
	ブレーキワイヤがフレームなどに引っ掛かっていませんか	引っ掛かりを取除いてください
まっすぐ走らない	車輪の空気圧は左右とも適正ですか	空気を均等に入れてください
	車輪もしくはキャストが摩耗していませんか	取扱店に相談してください
	フレームが変形していませんか	取扱店に相談してください
フットプレートが自重で落下する	ネジの締付けが緩んでいませんか	取扱店に相談してください
フットサポートが落下する	ポスト先端ボルトはしっかり固定されていますか	付属の六角レンチ (6mm) で増締めしてください
勝手にオートレスト機構が動く	オートレスト機構用ワイヤがフレーム等に引っ掛かっていませんか	引っ掛かりを取除いてください
オートレスト機構が動かない	人が乗った状態で操作していますか	人が乗った状態で操作してください
車輪の空気がすぐに抜ける	タイヤバルブが緩んでいませんか	取扱店に相談してください
	タイヤに異物が刺さっていませんか	取扱店に相談してください
	タイヤに亀裂、穴が開いていませんか	取扱店に相談してください

📌 注 記

- ¹⁾ 当社は「英式バルブ」のタイヤを採用している為、単体の圧力ゲージでも英式バルブの正確な空気圧測定はできません。空気圧は目安になります。



メ モ

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dashed lines.

メ モ

Handwriting practice lines consisting of multiple sets of three horizontal dashed lines for tracing and writing practice.

ランドルコーポレーション事業所

万が一不具合等ございましたら、販売店またはお近くの
下記営業所までお問い合わせください。

本社

〒351-0034 埼玉県朝霞市西原1-7-1
TEL.048-475-3661 FAX.048-475-3712

本社工場

〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町北永井421
TEL.049-259-4433 FAX.049-259-4430

札幌営業所

〒065-0042
北海道札幌市東区本町2条3-10-1-142
TEL.011-787-5100 FAX.011-780-5117

青森営業所

〒030-0921 青森県青森市原別8-9-1
TEL.017-736-9535 FAX.017-736-9534

八戸営業所

〒039-1103 青森県八戸市長苗代1-5-8
TEL.0178-20-8212 FAX.0178-20-8213

秋田デポ

〒010-0941 秋田県秋田市川尻町字大川反170-81
TEL.018-893-3861 FAX.018-893-3862

岩手営業所／北日本特販事業所

〒020-0846 岩手県盛岡市流通センター北1-2-20
TEL.019-614-3007 FAX.019-639-0631

仙台営業所／東北事業所

〒984-0015 宮城県仙台市若林区卸町4-8-10
TEL.022-782-5286 FAX.022-782-5287

埼玉営業所

〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町北永井421
TEL.049-274-3132 FAX.049-274-3134

群馬営業所

〒370-0105 群馬県伊勢崎市境伊与久3 8 4
TEL.049-274-3132 FAX.0270-61-9048

八王子営業所

〒193-0824 東京都八王子市長房町22-26
TEL.0426-68-9168 FAX.0426-68-9167

東京営業所

〒120-0005 東京都足立区綾瀬1-20-18
TEL.03-5629-5080 FAX.03-5629-5081

千葉営業所

〒262-0022 千葉県千葉市花見川区南花園2-9-21
RT サンライト101 号室
TEL.043-213-5775 FAX.043-273-5754

横浜営業所

〒240-0003 神奈川県横浜市保土ヶ谷区天王町1-16-4
TEL.045-459-5815 FAX.045-459-5814

湘南営業所

〒252-0824 神奈川県藤沢市打戻1 8 6 1 - 5
TEL.0466-90-5136 FAX.0466-90-5836

首都圏事業所／首都圏特販事業所

〒351-0034 埼玉県朝霞市西原1-7-1
TEL.048-475-3661 FAX.048-475-3712

名古屋営業所

〒485-0059 愛知県小牧市小木東1-12
TEL.0568-43-0790 FAX.0568-43-0830

大阪営業所／関西事業所／西日本特販事業所

〒578-0981 大阪府東大阪市島之内2-14-27
TEL.072-960-3600 FAX.072-960-3700

兵庫営業所

〒651-2132 兵庫県神戸市西区森友1-157
TEL.078-995-5982 FAX.078-995-5984

岡山営業所

〒700-0975 岡山県岡山市北区今8-3-35
TEL.086-242-6055 FAX.086-242-6066

福岡事業所

〒818-0063 福岡県筑紫野市桜台2-22-17
フォーサイト桜台Social House 101 号室
TEL.092-924-8586 FAX.092-924-8587